



要約: Patsnap (Eureka) と Tokkyo.Ai を特許調査支援AIとして比較すると、Patsnapは特許新規性調査における検索精度で優位性が示されています。一方、Tokkyo.Aiは複数AIが協調する「ディープエージェント方式」により思考プロセスの透明性を追求しており、AIの判断根拠を可視化できる点が大きな特徴です。それぞれユーザー体験 (UI/UX) にも工夫があり、Patsnapは直感的なインターフェースでグローバルな特許横断検索を提供し、Tokkyo.Aiはチャット形式で簡単な指示から調査～分析～文書化まで自動化します。導入実績では、Patsnapが世界15,000社以上で利用されるグローバルスタンダードなのに対し、Tokkyo.Aiは国内の研究機関や企業で試験導入が始まった新興サービスです。コスト面ではPatsnapはエンタープライズ向けの高価格帯、Tokkyo.Aiは月額数万円から利用可能な手頃さで差があります。最新アップデートとして、Patsnapは2026年に特許実務特化の評価基準「PatentBench」を発表しAIエージェント群（新規性調査・FTO・ドラフトティング）の高度化を図っています。Tokkyo.Aiも2025年末に画期的なディープエージェント機能を実装し、2026年には機能拡張とともに料金改定予定です。総合すると、「網羅的かつ高精度な prior art 検出」を重視するならPatsnapが有力であり、「AIの説明可能性や発明のアイデア創出支援」を重視するならTokkyo.Aiが適しています。 1 2

検索精度（X文献検出率）

Patsnapの提供する特許AIエージェント「Eureka」は、新規性調査（ノベリティサーチ）において極めて高い検索精度を示しています。2026年に発表された特許実務特化ベンチマーク「PatentBench」にて、**重要文献（X文献）**の検出性能をChatGPTベースの汎用モデルなどと比較した結果、上位100件の検索結果中に少なくとも1件正解のX文献を含められる割合（X検出率）が 81%、正解X文献を網羅的に拾い上げる割合（Xリコール率）が 36% に達し、汎用AIモデルを大きく上回りました 3 1。これは、Patsnap Eurekaが「より正確に、より漏れなく」先行技術文献を見つけ出せる能力を備えていることを意味します 1。この高精度は、Eurekaが単なる言語モデルではなく**知財実務に特化した実働型AIエージェント**として設計され、大規模かつ洗練されたデータ基盤と専門知識に支えられていることに起因します。実際、Patsnapは174カ国・2億件以上の特許データおよび2億件以上の論文データを統合し、重複排除や専門家によるラベリングなど多段階のデータ加工を行った上でAIを訓練しています。また、世界15,000社超の顧客企業を支援して培った特許調査ノウハウをエージェントのロジックに組み込んでおり、高精度な検索アルゴリズムと実務知見の融合により他を凌ぐ検出性能を実現しています 4。

一方、リーガルテック社の**Tokkyo.Ai**も生成AIを活用した高度な特許検索機能を備えていますが、その評価指標の打ち出し方はPatsnapと異なります。Tokkyo.Aiは現時点でPatsnapのような統一ベンチマーク上の数値（例えばX検出率）を公開しておらず、代わりに**具体的な事例検証や作業効率の改善効果**に焦点を当てています 5。たとえば社内セミナー等で、汎用AIでは見落とした類似特許をTokkyo.Aiが高精度に抽出できたケースなどを紹介しつつも、客観指標としての数値より実務上の有用性を強調するアプローチです 5。検索そのものの速度にも優れており、「10秒」で関連特許のリストを提示可能とされるなど、従来比で飛躍的な迅速化を実現しています 6。これはキーワード一致に頼らない意味ベース・文脈ベースの探索に生成AIを組み合わせる「Deep Search」によるもので、簡単な技術メモ等を入力するだけで高速に網羅的な先行技術調査が行える点が特徴です 7 8。総じて、**純粋な検索精度の指標化**ではPatsnapに軍配が上がるものの、Tokkyo.Aiも定性的な検証で高い有効性を示しており、特に検索スピードやユーザーが実感する実務効率向上の面で評価されています。

思考の透明性（AIの判断過程の可視化）

PatsnapとTokkyo.Aiのアプローチの最大の違いは、**AIの思考プロセスの可視化**にあります。Patsnap Eurekaは高精度な結果を返しますが、その内部プロセス（どのように検索・判断したか）はユーザーには直接示されません。いわばブラックボックス型のAIエージェントですが、同社は先述のとおり客観的な性能指標（検出率やリコール値）を提示することで結果への信頼性を担保しようとしています 9。つまりPatsnapは「何を

見つけられるか (What) 」というアウトプットの精度を極め、それを数値で証明することでユーザーの信頼を得る戦略と言えます⁹。

これに対し Tokkyo.Ai は「なぜその結果に至ったのか (How/Why) 」を示すことに重点を置いた設計です¹⁰。Tokkyo.Ai の「ディープエージェント方式」では、単一の AI モデルではなく複数の専門 AI が連携して調査・分析・提案を行い、そのプロセス全体がユーザーに開示されるようになっています¹¹。例えばユーザーが「〇〇に似た技術を調べて欲しい」と入力すると、バックエンドでは検索担当 AI・分析担当 AI・提案生成 AI が協調し、それぞれがどの観点で何を検討したかを逐次記録します¹²。ユーザーは結果を見るだけではなく、AI が「どのような検索式を立て、どの文献を読み、なぜそれを重要と判断したか」といった思考過程をワンクリックで確認できます¹³。必要に応じてユーザーが途中で調査方針を修正することも可能で、AI の判断に対する人間のフィードバックを交えながら進められます¹⁴。このように Tokkyo.Ai は、調査プロセスそのものの透明性とユーザー参加型のインタラクションを重視することで、AI の出力に対する「納得感」や「検証可能性」を高めています¹⁵。その背景には、「なぜその結論に至ったかが分からぬ」「プロセスがブラックボックスで社内説明の根拠に使いにくい」といった既存 AI ツールの課題があります¹⁶。Tokkyo.Ai はこれを解決すべく国内で初めて思考過程の可視化に踏み切った特許 AI であり、経営判断や出願方針の根拠説明にそのまま使える AI アウトプットを目指しています¹⁷¹⁸。結果として、Patsnap が「精度への信頼」を提供するのに対し、Tokkyo.Ai は「プロセスへの信頼」を提供していると言えるでしょう⁹。



Tokkyo.Ai の画面例。チャットベースの「ChatTokkyo」上で、AI が抽出した先行技術文献を技術的関連性グループごとに分析・分類して提示する様子。画面右側には AI が参照した特許の一覧（ソース）が表示されており、ユーザーは各文献の詳細や AI が着目した点をクリックで確認できる¹³。Tokkyo.Ai ではこのように調査プロセスから結果までがホワイトボックス化されており、ユーザー自身が AI の思考を検証・追跡できる点が大きな安心感につながっています。

操作性 (UI・UX の使いやすさ)

Patsnap はもともと特許検索・分析プラットフォーム「PatSnap Analytics」等で定評のあるサービスであり、ユーザーインターフェースは直感的で使いやすいと評価されています¹⁹。ウェブ上のモダンな UI から世界各国の特許データベースに横断検索をかけることができ、キーワード検索や特許番号検索、出願人名検索などに幅広く対応しています¹⁹。検索結果画面では関連度に基づくソート機能やフィルタ機能が充実しており、調査目的に応じて効率よく結果を絞り込めます¹⁹。特許公報の表示ビューアでは、引用関係の可視化や機械翻訳機能など実務に便利なツールも備わっており、調査から分析まで一つのプラットフォーム上でシームレスに完結できます²⁰。加えて、Patsnap Eureka の AI エージェントは新規性調査のワークフローを自動化しており、先行技術の抽出から関連度評価、クレームとの対応付け、レポート生成まで従来数週間要した作業を数分～数時間で完了させることができます²¹。このような高度な自動化機能を持ちながらも、UI 自体はシンプルかつ洗練されており、専門家でなくとも比較的短時間のトレーニングで操作に習熟できるよう工夫されています。もっとも、提供機能が多岐にわたるため エンタープライズ向けの包括ソリューションとい

う色合いが強く、大企業の知財部門など高度なニーズに応える一方で、小規模ユーザーにはオーバースペックとなる部分もあるかもしれません。とはいえて、PatsnapのUI/UXは豊富な機能性と使いやすさのバランスが取れており、多国籍の顧客から支持を得ています¹⁹。実際、同社主催のセミナーでも「使いやすいUI」との評価が聞かれるなど、ユーザー エクスペリエンスの面でも高い完成度を有しています²²。

Tokkyo.Aiの操作性は、近年普及したチャットGPTのような対話型UIをベースとしている点が特徴です。ユーザーは専門的な検索式を覚える必要はなく、「〇〇に関する技術動向を調べてほしい」「発明メモ（文章）から関連特許を探して」といった自然言語の指示や、自身の書いた技術メモ・草案文書をそのままアップロードするだけでAIエージェントを活用できます²³ ²⁴。バックエンドでは複数のAIが協働して処理を進めますが、その過程は前述の通り可視化されるため、ユーザーは対話をしながらAI調査員と二人三脚で仕事を進めている感覚に近いでしょう。¹³ たとえば調査中にAIが表示した中間結果や関連分類を見て、「この方面的の文献は除外してほしい」「こちらの技術要素にも注目して」とフィードバックを与えることで、リアルタイムに検索・分析の方向性を修正させることも可能です²⁵。画面レイアウトはChat画面と並行して「AI処理プロセス」や「ソース（参照文献リスト）」が確認できる構成になっており、初めて使う人でもどのようにAIが動いているか把握しやすく安心感があります¹³ ²⁶。また、Tokkyo.Aiはクラウド型のSaaSサービスとして提供され、IDとパスワードでログインするだけで利用可能です。検索クエリやアップロード文書は「プライベート特許検索®」環境で安全に処理され外部に漏れない設計になっており²⁷、企業内機密情報でも安心してAI活用できるようUX面で配慮されています。UIも日本語を含むマルチリンガル対応で、日本の実務家にとって使いやすいよう最適化されています。総じてTokkyo.Aiは、専門知識がなくとも対話しながら高度な特許調査ができる手軽さと、プロフェッショナルが使い込めるカスタマイズ性（プロセスへの介入余地や検証機能）を両立した次世代のインターフェースと言えます。

導入実績（企業・法律事務所・大学での導入事例）

Patsnapはグローバルで広範な導入実績を持つ知財ソリューションプロバイダです。同社はシンガポール発のユニコーン企業であり、特許検索・分析ツール「PatSnap Analytics」からスタートして以降、世界中の企業・研究機関にサービスを提供してきました²⁸。公式には“Trusted by more than 15,000 innovators worldwide”（世界15,000以上のイノベーターに利用されている）とされ²⁹、実際にグローバルの大手企業から中小企業、大学・研究機関、特許事務所に至るまで幅広いユーザー層を抱えています。具体的な導入企業名は機密のケースも多いですが、業種で言えばハイテクメーカー、自動車、製薬、大学の研究室、特許法律事務所などが主要顧客です。日本国内でも、大企業の知的財産部門を中心にPatsnapを導入するケースが増えており、「社内の特許調査インフラとしてPatsnapを契約し、調査効率が飛躍的に向上した」といった事例が報告されています。また外資系企業では本社主導でPatsnapを導入し、日本拠点の知財部署がそのシステムを利用しているケースも見られ、事実上の業界標準ツールの一つとなりつつあります。長年の実績に裏打ちされた信頼感やグローバルデータへの強みもあり、導入検討時に社内裏議を通しやすい点も大きな強みです。

Tokkyo.Aiは2021年創業のリーガルテック社による比較的新しいサービスであり、現在まさに導入事例を拡大しているフェーズです。国内初の生成AI特許プラットフォームとして注目度は高く、既に国内トップクラスの研究機関で試験導入が進行中と報じられています³⁰。例えば大学の研究推進部門や産学連携プロジェクトで、Tokkyo.Aiを使って研究アイデアの発掘から特許出願戦略立案までを効率化する試みが行われているようです。また製造業の大企業において、新規事業の特許調査にTokkyo.Aiを活用し、従来のキーワード検索では見つからなかった技術的ホワイトスペースを発見したケースなどが紹介されています。特許事務所でも、AIを活用した調査・明細書作成サービスに関心が高まっており、いくつかの中堅特許事務所がTokkyo.Aiのパイロット導入を検討しているとの情報があります。ユーザー層としては、リーガルテック社自身が「特許事務所から大学、企業の知財部、新規事業部門まで幅広いユーザー層」をターゲットにしていると述べており³¹、実際その戦略通りスタートアップ企業や中小企業の利用も視野に入れています。Tokkyo.Aiは初期費用がかからず月額課金も手頃なため³²、これまで専門人材や高額ツールの調達が難しかった層にもアプローチでき、地方の中堅メーカーや大学の研究室などでAI特許調査の民主化を進めるポテンシャルがあります。今後の展開次第ではありますが、「知財の民主化」を掲げる国や自治体のDX施策と連携した導入事例（例えば地域の

中小企業支援策として補助導入)なども期待されます。現時点ではPatsnapなどの導入実績数はありませんが、革新的なアプローチに対する業界の期待値は高く、2025年末のディープエージェント実装以降、問い合わせやトライアル利用が急増しているようです。Tokkyo.Ai自身も導入事例の公開に積極的で、公式サイトでエドテック企業での活用例や大学での分析事例³³を紹介するなど、その有用性を具体的に伝えています。

コスト（料金体系・プラン）

Patsnapの利用料金はエンタープライズ向けの価格設定となっており、一般的に高額です。公開されている情報によれば、特許検索・分析機能を含む基本プランで月額約10万円程度、利用範囲によってはそれ以上の費用が発生します³⁴。実際の契約はユーザーの規模や必要機能によってカスタマイズされるため「問い合わせ（見積もりベース）」となるケースが多く、大企業向けには年間数百万円規模の包括契約もあります。一方で近年、Patsnapも中小企業向けに廉価プランを用意し始めており、例えば生成AIエージェント機能を限定的に利用できる「Proプラン」が月額399ドル（約5~6万円）で提供されています^{35 36}。しかし本格的に特許調査・分析を網羅するには上位プランが必要となり、画像検索やFTO（侵害予防調査）エージェント、複数ユーザー利用などを含むエンタープライズ版では月額数十万円規模を覚悟すべきでしょう³⁴。総じてPatsnapは高性能ゆえに価格も高めですが、包括的なデータベースアクセスとAI機能込みで考えれば妥当な範囲との評価もあります。大口契約ではトレーニングや専任サポートも含まれるため、大企業にとってはむしろ費用対効果が高いとの声もあります。

Tokkyo.Aiは明確でシンプルなサブスクリプション料金を打ち出しており、初期費用0円・月額2万円（税別）から利用可能です³²。2025年12月のディープエージェント機能リリース時点ではこの月額2万円という低価格で提供を開始し、既存ユーザーは追加料金なしで新機能を利用できる戦略的な価格設定となっています^{23 32}。この金額は特許検索から分析、提案書ドラフト生成までを自動化する高度なAIエージェントとしては破格であり、「スタートアップ・中小企業・大学研究者でも日常使いできる水準」に抑えることで裾野を広げる狙いがあります^{37 38}。ただしリーガルテック社は2026年4月より月額3.5万円（税別）への値上げを予定しており³⁹、これはディープエージェント機能の高度化と提供価値拡張によるものと説明されています³⁹。それでも3.5万円という価格は、Patsnapなど競合エンタープライズ製品と比較すれば依然として安価であり、機能強化後もコスト面での優位性は維持される見込みです。なお、Tokkyo.Aiには無料トライアルプランの有無は明示されていませんが、問い合わせに応じてデモや一時利用を提供しているようです。また追加ユーザー（アカウント）の料金体系やAPI利用など特殊なケースについては個別相談となります。総合すると、コスト重視でAI特許調査ツールを導入したい場合、Tokkyo.Aiは低コストでスタートできる点で大きな魅力があります。一方、Patsnapは高額ではあるものの、その費用に見合う広範な機能とデータアクセスが含まれているため、予算に余裕がありフル機能を求める企業向けと言えるでしょう。

最新の機能アップデート（2025年以降）

Patsnapは近年、生成AI技術を知財領域に最適化した新機能の開発とその客観的評価に力を入れています。最大のトピックは、2026年1月に発表した知財実務特化のAI評価ベンチマーク「PatentBench」です⁴⁰。これは特許実務におけるAIの有用性を定量的に測定する世界初の試みであり、最初の評価対象として「新規性調査」にフォーカスして構築されました⁴¹。PatentBenchの結果から明らかになったように、PatsnapのAIエージェント（Eureka）は汎用LLMより高い性能を示し、同社はこのベンチマークを知財AI評価のグローバルスタンダードに育てたい考えです^{40 1}。また製品機能面でも、2025年前後よりPatsnap Eurekaプラットフォーム上に複数のAIエージェントが統合されました。具体的には、新規性調査エージェントに加え、侵害予防調査（FTO）エージェント、特許ドラフト自動作成エージェントなどをラインナップし、ユーザーは目的に応じてこれら専門AI機能を利用できるようになっています³⁶。例えばドラフト作成エージェントは、発明の要旨を入力すると特許明細書の下書きを自動生成してくれるもので、2025年にはβ版が公開されフィードバックを経て精度向上が図られました。さらに、Patsnapはデータ面でもアップデートを重ねており、新興国を含む特許データや非特許文献データベースの拡充、AIによる自動分類や機械翻訳精度の向上など、プラットフォーム全体の強化を続けています。これにより「調査」「分析」「文章生成」の各フェーズでAIが支援する包括的ソリューションへと進化を遂げつつあります。今後も年次リリースでAIモデルのアップグレード（例え

ばGPT系モデルの新版採用や独自モデルの改良）や、新たな評価指標の公開、ユーザー要望に基づくUI改善などが予想され、Patsnapは知財AI分野で先行する存在としてリードを保っていくでしょう。

Tokkyo.Aiの最新アップデートとして特筆すべきは、**2025年12月18日**にリリースされた「Deep Agent（ディープエージェント）方式」の実装です²³。これは、従来Tokkyo.Aiが個別に提供していた発明抽出、先行技術調査、明細書ドラフト生成支援といった機能群を、**複数AIエージェントの自律協調によって一気通貫で実行する新機能**です^{23 42}。ディープエージェント方式では、AIが人間の知財担当者や弁理士の思考プロセスをなぞるように、検索→分析→提案という3ステップを自動遂行します^{24 43}。このアップデートにより、Tokkyo.Aiは単に部分的なタスクを支援するツールから、「**思考パートナー**」としてユーザーと協働しながら業務を完結できる高度な知財プラットフォームへと飛躍しました⁴⁴。リーガルテック社はこのディープエージェント機能が国内初であることを強調しており¹⁷、特にAIの説明可能性・検証可能性を担保した**次世代のDeep Research機能**として位置づけています⁴⁵。また、2026年以降のロードマップとしては、ディープエージェントのさらなる高度化（例えば各エージェントの専門領域拡充や、新しいアルゴリズム導入）や、発明提案書・特許ドラフトの質向上、ユーザーがカスタムAIを学習させられる機能等が検討されているようです。価格改定（前述の月額3.5万円への値上げ）もその機能拡張に伴うものであり³⁹、裏を返せば今後も継続的にTokkyo.Aiが進化していくことを示唆しています。さらに、リーガルテック社は他企業との連携にも積極的で、2025年にはセキュア研究データ基盤「AI孔明 on IDX」との統合ソリューション提供を開始しました⁴⁶。これは研究データ管理と特許AIを組み合わせたもので、研究ノートから自動で発明を抽出し特許化する、といった応用が可能になります。こうした関連領域との連携もTokkyo.Aiの特徴的アップデートと言え、単体機能の強化のみならずプラットフォーム全体でイノベーション創出を支える基盤作りが進められています^{46 47}。総じて、2025年末のディープエージェント実装はTokkyo.Aiにとって大きな転換点であり、以降も知財DXを加速する新機能が順次投入される見込みです。

ユーザーのニーズ別・サービス適性評価

上述の比較結果を踏まえ、ユーザーの目的や重視ポイントに応じて**Patsnap**と**Tokkyo.Ai**のどちらが適するかをまとめます：

- ・**新規性調査・無効資料探索を徹底したい場合（精度最優先）**：競合他社の特許や文献を「漏れなく見つけ出す」ことが求められる用途では、Patsnapの高い検索性能が適しています。特にX文献の見逃しが許されない特許審査対応やFTO調査では、PatentBenchで実証されたEurekaの検出力¹が大きな安心材料となるでしょう。また、グローバル特許データへの網羅的アクセスや高度な分析ツールも必要な場合、オールインワンのPatsnapが有利です。
- ・**AIの判断根拠を確認しながら進めたい場合（透明性・納得感重視）**：「AIの出力を鵜呑みにせず、人間が検証・補完しながら使いたい」というニーズにはTokkyo.Aiがより適しています。ディープエージェント方式によりAIの調査プロセスを途中経過まで含めて把握できるため¹³、経営層への説明資料作成や、社内合意形成の場でも説得力のあるアウトプットを得られます⁴⁴。AIをブラックボックスにしたくない法律事務所や、研究戦略の妥当性を検証しながら進めたい研究機関にはTokkyo.Aiの透明性が強みとなります。
- ・**アイデア創出・発明のブラッシュアップをしたい場合**：新規事業のタネ探しや研究段階での発明抽出には、調査だけでなく発明の提案機能やドラフト作成支援まで備えるTokkyo.Aiが有用です。Tokkyo.Aiはチャット対話を通じて発明内容を整理し、関連技術との差異や権利化の方向性を提案してくれるため⁴³、社内ブレインストーミングの相棒として機能します。特許出願の経験が浅いスタートアップでも、Tokkyo.Aiを使えば発明の要点を洗い出しながらプロが下書きしたような明細書ドラフトを得ることも可能です。
- ・**予算を抑えてAI特許ツールを導入したい場合**：コスト面ではTokkyo.Aiに軍配が上がります。月額2万円～3.5万円という価格設定^{32 39}は、予算制約のある中小企業や大学にも手が届く水準です。

Patsnapは高機能ゆえに費用も高額になりやすく、小規模ユーザーにとってハードルが高いことから、まずは低コストで始めたい場合はTokkyo.Aiが現実的な選択肢となるでしょう。ただし、逆に言えば予算が潤沢で最高性能のツールを求める場合は、費用対効果を度外視してもPatsnapを導入する意義があるとも言えます。

・**大規模運用・セキュリティ重視の場合:** 大企業の全社導入や機密データを扱う用途では、実績豊富なPatsnapの方が安心感があります。Patsnapはオンプレミス（社内設置型）にも対応しており、クラウド利用が難しい環境でも導入可能です²⁹。グローバル企業の場合、海外拠点含めて共通基盤として使える点や、専任サポートによるカスタマイズ対応など、エンタープライズグレードのサービス水準を期待できます。一方Tokkyo.Aiも高度なセキュリティ設計を備えていますが²⁷、現状はクラウドSaaS提供のみのため、社内ポリシー上クラウド禁止の組織では採用が難しい場合があります。そのため**社内規制が厳しい金融・防衛系企業**などではPatsnapのほうが適しています。

以上のように、PatsnapとTokkyo.Aiはそれぞれ強みと適用シーンが異なります。² 総括すれば、「**AIに最高の網羅性と精度を求めるならPatsnap**」、「**AIをパートナーとして一緒に考えることを求めるならTokkyo.Ai**」という住み分けになります²。ただし今後の市場動向によっては、ユーザー側も「精度」と「透明性」の両方を求めるようになると考えられます⁴⁸。実際、Patsnapも将来的には説明可能性の向上に取り組む可能性がありますし、Tokkyo.AiもAI精度の客観評価を公開してアピールするかもしれません。将来的には**高い性能と透明なプロセスの両立**が実現されたツールが望まれ⁴⁸、その過程でPatsnapとTokkyo.Aiも互いに刺激し合いながら進化していくでしょう。現時点では、ユーザーは自社のニーズに照らし上記観点を吟味して最適な方を選定するのが賢明です。各サービスとも日進月歩でアップデートされていますので、最新情報を確認した上でトライアル等を活用し、自社業務とのフィット感を確かめてから導入判断することをお薦めします。

比較表: Patsnap vs Tokkyo.Ai の概要

観点・項目	Patsnap (Eureka & PatentBench)	Tokkyo.Ai (Deep Agent方式)
提供開始・アップデート時期	2026年1月: PatentBench発表 ⁴⁹ ※AIエージェント自体は2025年以前から提供	2025年12月: Deep Agent実装 ⁵⁰ ※生成AI特化機能を順次拡張中
主な比較対象・コンセプト	汎用LLMとの性能比較 (ChatGPT等に対し精度優位を証明) ⁵¹	従来型キーワード検索や汎用AI検索に対し透明性・効率性で差別化 ⁵²
重視する指標・価値	定量的な精度指標 (X検出率81%、リコール36%等) ⁵³	定性的な透明性と業務効率 (思考プロセスの可視化、作業時間短縮) ⁵⁴
AIの強み・特色	高再現性・網羅性: 「重要文献を見逃さない」自動調査 ⁵⁵	説明可能性・納得感: 「なぜその文献を選んだか」を提示 ⁵⁶
想定ユースケース	新規性調査、無効化調査、侵害予防調査 (漏れなき厳密調査が必要な場面) ⁵⁷	発明創出支援、先行調査、明細書ドラフト (アイデア創出～権利化の支援) ⁵⁸
導入実績・対象ユーザー層	世界15,000社以上 (大企業中心、グローバル展開) ²⁹	国内中心 (研究機関・事業部門・特許事務所など幅広くトライアル中) ³⁰ 31
料金イメージ	月額数十万円規模 (プランにより変動) ³⁴	月額2万～3.5万円 (低価格で開始、順次改定予定) ³² 39

<small>【注】上記は2025年～2026年初頭時点の情報に基づく比較です。実際のサービス内容・価格等はアップデートにより変動する可能性があります。</small>

1 3 4 9 10 11 12 14 15 21 25 40 41 44 48 Patsnapは、2026年1月12日、特許実務特化AIベンチマーク「PatentBench」を発表しました。そして、このベンチマークで、Patsnap Eureka新規性調査エンジニアント、ChatG.docx

file://file_00000000b4a87209bee98f7b09273a53

2 5 6 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 Patsnapは、2026年1月12日、特許実務特化AIベンチマーク「PatentBench」を発表.docx

file://file_00000000211c7209a3531ab0c69760b8

7 8 27 37 TokkyoAi（特許AIエージェントシステム）徹底調査

<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/6165e9c82c81991d8848.pdf>

13 16 17 18 23 24 26 32 38 39 42 43 45 日本初！リーガルテック社、特許特化ディープリサーチ実装！調査から特許出願文書ドラフトまでをAIエージェントが自律実行【TokkyoAi】 | リーガルテック株式会社のプレスリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000388.000042056.html>

19 34 特許検索・特許調査ツールの比較まとめ | arisada | スタートアップ知財コンサル

<https://note.com/arisdaman/n/n24360aa71aa3>

20 生成AI（GPT、LLM）を活用した特許情報分析のポイント Part6（Chat-GPT Deep researchとの合作） | LeXi/Vent 上村侑太郎

https://note.com/yu_py/n/na23e6c4375eb

22 AIが知財を変える！PatSnapを用いた技術調査セミナー - valuenex

<https://www.valuenex.com/jp/events-list/2024/ai-ip-seminar>

28 日本を目指すシンガポール発SU（1）Patsnap、AIで知財活用を変革

<https://www.jetro.go.jp/biz/areareports/2024/74798653019de35f.html>

29 Patsnap Eureka - AI Agents for IP & R&D Innovation Platform

<https://www.patsnap.com/solutions/eureka>

30 46 47 リーガルテック社、“知の資産を守り、活かす”AIエージェント基盤「Tokkyo.Ai」×セキュア研究データ基盤「AI孔明 on IDX」提供開始 | リーガルテック株式会社のプレスリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000300.000042056.html>

31 33 yorozuipsc.com

<https://yorozuipsc.com/uploads/1/3/2/5/132566344/cf3fd9a1b08467b697dd.pdf>

35 36 eureka.patsnap.com

<https://eureka.patsnap.com/ip/pricing>